

どもの主張大会

— 「ことばの力」の育成を目指して—

年生および、各中学校1～3年生の中から推薦された児童・生徒（各学校1人・合計21人）
心から思ったこと、感銘を受けたことなどを飾り気のない言葉で主張しました。

「ありがとうございます。ありがとうございます。」おばあちゃんは、また今日も、この言葉を言っています。私のおばあちゃんは、福島県に住んでいました。でも、三月十一日の東日本大震災で家がこわれ園部の私の家にひなんしてきました。最初のころ



南丹市長賞

おばあちゃんのありがとう

南丹市立摩気小学校6年

仲 友里子さん

は、「友里子ちゃん、おばあちゃんは今も体がゆれて、ずうっと船に乗ってるみたいなんだよ。ほら、手がふるえて、字も書けないよ。」と言っていました。それぐらい大きくて、おそろしい地震だったのです。その頃、おばあちゃんは、新聞やテレビでがれきの片づけや水を運んでくれるニュースなどを見ると、遠い場所の出来事でも、手を合わせたり、頭を下げてりして、「ありがとうございます。」と言っていました。

それを見ていて、私は気が付きました。おばあちゃんは、「ありがとうございます。」と言うたびに少しずつ明るく元気になってきたのです。どこかのだれかの、温かい気持ちで、私のおばあちゃんの元気につながっていたのです。

震災から五か月、おばあちゃん



◀森教育長から表彰状を受け取る仲子さん

は、「福島に帰りたいなあ。」と言っています。それは、たくさん人の温かい気持ちのおかげで、やっと元気になったからです。そして、やっぱり福島が大好きだからです。福島の言葉、景色、福島の全部が大好きだからです。私は今、半分さびしいけど、半分うれしいです。みなさんも、一緒に強く願ってください。ひ災されたどの方も、一日も早く元気になりますように。自分の町に帰れますように。